

Step3 テーマ「若者の食事づくり&高齢者の孤食」について考えてみよう？

最後のグループワークは、市が設定したテーマについての意見交換でした。最初に市からテーマ『若者の食事づくり&高齢者の孤食』をテーマとした理由を説明しました。

《テーマ設定の理由》

- 若者の中には「自分で調理する機会を増やしたい」と思っている人が3割います。
：日本一若い街といわれるように住民の平均年齢が非常に若いという特徴、市内に大学が4つあり学生の街でもあるという特徴を持つ長久手市にとって、若い世代の活力や発想は、市が抱える課題の解決や、強みをより強くするための重要な材料になるとの考えからテーマの一つとしました。
- 高齢者は食事を「一人で食べている」が2割以上となっています。
：高齢者の孤食の問題は全国共通の課題と思われませんが、長久手市でも必ず将来的に抱える問題ですので、ぜひこの機会に孤食問題について考えてみたいと思いテーマとしました。

残された時間で、『若者の食事づくり』&『高齢者の孤食』について、背景・要因、影響などをグループで話し合いました。

各グループで出た意見（抜粋）

若者の食事づくり (なぜ機会を増やしたいと思ってる？ その理由は？)
簡単につくれる SNS、YouTube等の影響、料理チャンネル
かつこいい、もてるから、 おうちデートが増えた、男性も食事づくりできないと
「お母さん食堂」にNo 「母が台所に立つ」という考え方が古くなってきた
お金がかかる・お金がない 外食・中食はお金がかかる、外食するお金がない
一人暮らしが増えた 若者の一人暮らし多い、一人暮らしが増える世代
自立の一步 自立したいとの気持ちの表れ
身体にいいものをつくる、外食に魅力がない おいしいもの、身体にいいものを望む、健康のため
材料が手に入る 生産者が身近にいる、食材の店も多い
子ども・若者の意識の変化 共働き世代の増加、子が親を助けたい、食への意識の高まり

高齢者の孤食 (高齢者の孤食が増えることをどう思う？どの様な影響が…?)
負のスパイラル 人と食べない→楽しくない→おいしくない→人生つまらない
健康に悪影響 食を楽しめない→低栄養、フレイル、認知症の増加にも
ますます増える これからどんどん増えていくと思う、独身者が増えている
食べてくれる人がいるから工夫してつくる 人に食べてもらう喜びがなくなる 粗食増加の可能性
手間を掛けなくなる 不規則になる、集まって食べないと、コロナが…
中食が孤立を助長 人とコミュニケーションをとる機会が減る
社会とのつながり 希薄化→孤独死 社会の中のコミュニティに自分がいる意識が薄れていく
都市化=孤食化 都市化とは孤食化なので、抗いようがない
共食の場の提供を 地域での社会活動に関わってもらうような取組があれば

次回に向けて

次回のワークショップは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催日時を8月28日(土)10:00~12:00に延期し、紙面による意見募集とオンラインによる意見交換に変更いたします。前回 Step 3 で出された意見を参考としつつ、『若者の食事づくり&高齢者の孤食』をテーマに、市民と行政が行う取組、行動などのアイデアを出し合うワークショップを予定しています。

長久手の食育を考えるワークショップ (事務局：長久手市建設部 みどりの推進課)
Tel : 0561-63-1111 (代表) Mail : midori@nagakute.aichi.jp 担当：都築、吉田



世代を超えて新たなつながりをデザインする場として、6月に開館したばかりのリニモテラス公益施設が会場でした。自然木を内装に用いた“癒やし系”の空間で、対角のコーナーでは多文化共生に関わるイベントが同時開催されていました。

参加者は19名で4つのテーブルに分かれワークショップは始まりました。冒頭、市よりワークショップの開催趣旨を説明した後、Step 1では、参加者の皆さんから“食”をテーマに自己紹介をいただきました。次にStep 2では、昨年度実施した食育に関するアンケートの調査結果を参考としつつ、現在の長久手市の食育の特性(良いところ、悪いところ)について意見交換しました。

最後にStep 3では、今回のワークショップでのテーマである“若者の食事づくりと高齢者の孤食”について、その要因や今後の影響などについて意見交換しました。



全体で3回の
ワークショップを
予定しています。



第1回 ワークショップ

日時：令和3年7月10日(土) 10:00~12:00
場所：リニモテラス公共施設 大廊下ほか

【プログラム】

- 開会 あいさつ・趣旨説明
- Step. 1 あなたにとっての食とは？
・“食”をテーマに自己紹介
- Step. 2 アンケートの結果から、
分かったこと、気づいたこと！
・長久手市の食育の特性(良いところ、悪いところ)をみんなで話し合い
- Step. 3 テーマ『若者の食事づくり&高齢者の孤食』について考えてみよう！
・テーマに沿って意見交換
- 閉会

挨拶・趣旨説明

長久手市では、市民一人ひとりが食の大切さを理解して主体的に食育に取り組むための指針として、平成19年に食育推進計画を策定しました。現在の第2次食育推進計画は、「みんなで楽しく食べよう長久手の食」を基本理念とし、それを達成するための4つの目標をもとに各取組が行われています。

しかし、前回の改定から約5年が経過し、本市の食を取り巻く環境や食育に対する市民の関心・意識も変化しているということで、今年度に計画を見直すことになりました。

ワークショップでは、全3回の開催を通して、参加者の皆さんの思いや意見等をいただき、次期計画へ活かしていくことを目的としています。



Step1 あなたにとっての食とは？（自己紹介）

スタッフを含め参加者全員が、『私にとっての“食”』について一言添えて、自己紹介を行いました。発言の内容は十人十色で、食に対する皆さんのこだわり、思いをうかがい知ることができました。



Aグループ

コミュニケーション みんなで食べるとより美味しい
できるだけ、家族が揃って食事する事 (一緒に食事をする人が家族になる…)
ゆっくり楽しんで、 できれば家族そろって食事をする
毎日 生のフルーツを何かしら食べる
早食いの改善
みんなで ゆっくり よく噛んで食べたい!

Cグループ

朝食欠食
自分で食べる物は、なるべく自分で作る
朝食は抜かない
消費者の選択、生産者の方とのつながり応援
用意されたものを残さないで食べる
朝ごはんは毎日食べます
自分で食事をつくる!!

進行スタッフ

なるべく『国産』買ってます
なるべく50年前から存在する食材・食物を食べる

Bグループ

帰宅後、30分以内で「いただきます！」 楽しく食べる
自分が作っている野菜には化学農薬は使用しない
隣がコンビニで、 食べたいな~と思うものに手がのびる
食材の買物は、必ず子どもを連れて行くこと
朝・昼食をとらない 酒飲みすぎ
食事を楽しむ
旬のもの 楽しく食べる

Dグループ

体に安心、安全な食材
お酢を摂る
よく噛んで食べる
毎朝、ヨーグルトを食べること
なるべくたんぱく質をたくさんとる様に、 意識するようにしている
できるだけ国産のものを選ぶ、 なかでも近い場所で採れたもの、作ったもの

Step2 アンケートの結果から分かったこと、気づいたこと!



昨年度(令和2年度)、長久手市では食育に関するアンケート(市民、児童・生徒、保護者の3種)を実施しました。事務局スタッフよりその結果概要を報告しました。参加者の皆さんには、アンケートの報告を聞きながら、事前に配布した「長久手市の食育・良い点カード」「同・悪い点カード」に意見を書き上げていただきました。

その後はグループワークです。グループ内で意見交換して、長久手市の食育の特性(良いところ、悪いところ)を考えました。

各グループで出た意見(抜粋)

Aグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
“農業体験している”割合が高い 子どもたちが農作業に触れる機会があるのは良いと思う	学生や若者(10・20代)の欠食 栄養バランスも良くない、身体のことを考えた食事を
食育に関心のある人が多いと思う 「食育」という言葉の認知度、保護者で90%超. 全国比較?	中高齢者の孤食「いつも一人で食べている」 60歳以上で20%. 単身世帯、仲間がいない
廃棄や食べ残しが少ない! 食べ残ししない70~80% (食べ物を大切にしている意識が高い)	中学生の運動不足 子どもたちの生活環境・生活様式が大きく変化している

Bグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
“場”がある、伝統野菜の認知度高い あぐりん村がある、農業校がある、平成こども塾がある	欠食 若者も保護者も 身体が作られる時の食事は大事、保護者の欠食の背景は?
若者が調理に関心 自分で調理したい若者が増えている、調理する機会を増やす	孤食 中高齢者の孤食が増えていること
給食が良い、充実している 具材が大きい、生産者名も、給食が充実している	農業体験 二極化? 50~60代に農業体験が少ないこと驚き

Cグループ

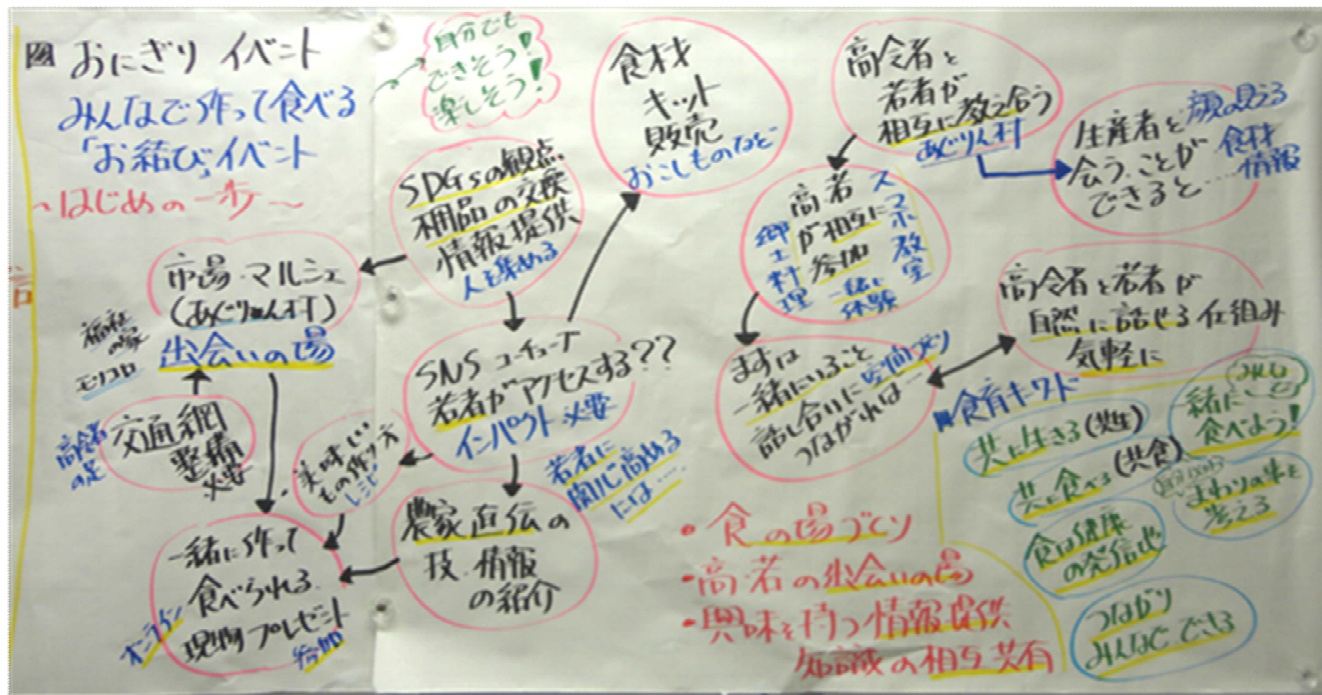
長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
農業ができる環境にある 若い世代で農業体験ができる環境にある、農業体験者多い	体験しにくい? 実践までつなげることが難しい
緑が多い環境 自然豊かで田畑もまだ残っていて、地産地消がしやすい	中高年の方の食事バランスガイドの認知度が低い 知っていても実行が難しい? 栄養バランスの考え方
あぐりん村 あぐりん村で地域の野菜が買える(出荷のハードル高い?)	地元野菜をもっと買いやすく 地元野菜を買いやすい場所がほしい

Dグループ

長久手の良いところ (長久手市の強み、さらに伸ばしていきたいこと)	長久手の悪いところ (長久手市の問題点・課題、改善していきたいこと)
農作業体験 郷土料理 子ども知っている 保育園・小中学校の取組が「食育」の基となっている	世代間ギャップ 高齢者の方が食事バランスへの意識が薄れている
女性の方が意識が高い 女性の方が食に対する意識が高いように感じる	SNSで間違った知識 間違った食事を信じてしまう、中学生のダイエットはやめて
自分で調理したい 10・20歳代が集える、調理する機会は増やせるはず	野菜不足 分かっているけどできないことはたくさんあります。

すべてが素晴らしい取組といった意見もあって、いくつかの一押し事業に絞り込むことはできませんでした。参加者全員の発表を踏まえて、感想を含めて、意見交換していきました。意見の一例を紹介します。

- ・孤食、現在の食生活を問題視していない現状がある。食に関する情報提供が必要。高齢者が必然的に集まる場所（医療・福祉施設等）で情報発信するなどしたら、着実に反応すると思う。
- ・SNSやYouTubeなどを活用して若い方の関心を喚起する。そのためには何らかのインパクトは必要となる。農家さん直伝の料理方法とかがあれば、若者も学んでいくのでは。
- ・“つながり”が大事。若者も高齢者もつながりたいという思いはある。まずは「一緒の場にいる」ことが必要。
- ・若者と高齢者が「一緒に何かをすること」ができるといい。食事づくりの場を提供していく。「相互に教え合う」ような関係ができるといい。継続していけるようにすることも考えて。
- ・そうした人と人の関係が、お互いの助け合いの仕組みに発展していくとなおいい。
- ・参加しようと思う第一歩がまずは大きい。興味を持ってもらうこと（例えば、食べること）や、簡単にできること（例えば、おにぎりイベント）から始めるとか。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、8月25日、愛知県にも「非常事態宣言」が発出されました。本来はみなさんと顔を合わせて実施したかったですが、第2回ワークショップは、やむなくオンラインでの開催とさせていただきました。オンライン参加者は6名、書面での参加が8名となりました。オンライン参加者の中には、この日のためにPCを購入してオンライン会議に初挑戦していただいた方もいらっしゃいました。ありがとうございました。



Step.4 さいごに一言

長久手の食育で、大切にすべきキーワードを考えてもらいました。第2回ワークショップの意見交換を反映し、「共に生きる」「共生」、「一緒に食べよう」、「共に食べる」「共食」、「食は健康の発信地」、「周り（自分以外）のことを考える」、「つながり」などのキーワードが出てきました。



次回に向けて

次回のワークショップは、11月6日（土）10:00~12:00です。『計画（案）を見てみよう！』をテーマとし、計画の骨子（案）を見ていただきながら意見交換致します。今回はオンラインではなく、対面方式です。みなさんご参加ください。

長久手の食育を考えるワークショップ（事務局：長久手市建設部 みどりの推進課）
Tel: 0561-63-1111 (代表) Mail: midori@nagakute.aichi.jp 担当: 都築、吉田

まずは前回のふり返りをした後、Step 1では、事前に考えてきた市民&行政が行う食育の取組み、行動のアイデアをみんなで発表しました。次に、Step 2・Step 3では、出てきた取組み・アイデアを踏まえて意見交換を重ねました。最後に Step 4では、長久手の食育推進計画を考えるにあたって『最も大切にすべきキーワード』は何かを考えていただき、本日の感想と併せて一言いただきました。



第2回 ワークショップ
日時：令和3年8月28日（土） 10:00~12:00
場所：オンライン

【プログラム】

開会 はじめに 前回のふり返り

Step. 1 市民&行政が行う食育の取組を考えてみよう！

- ・参加者から取組、アイデアを発表

Step. 2 みんなでアイデアを練り上げよう！

Step. 3 一押し事業を考えてみよう！

- ・みんなで意見交換

Step. 4 さいごに一言

- ・長久手の食育『最も大切にすべきキーワード』とは & 今日の感想

閉会

Step.1 市民&行政が行う食育の取組を考えてみよう!

参加者のみなさんから、事前に考えていただいた取り組み・アイデアを発表いただきました。

ながくての食育 取組・行動のアイデア(1)

①テーマについての問題・課題

- ・1人が生きやすい? コミュニティ不足の解消。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・市場の開催 ※学生が多いのでお店を出す。
↓
(地域・近隣のお店の協力)・高齢者もお店を出す。

(Name : S・Y)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(5)

①テーマについての問題・課題

- ・繋がりを取り戻す(独りにならない)。
・体験を共有する、技術の伝承。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・みんなの食堂。
参加者が食材を持ち寄って(全員が助け合う)。

(Name : F・M)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(11)

①テーマについての問題・課題

- ・高齢者・学生の「食」の時間がバラバラ
- ・需要と供給のアンバランス
- ・学生がアピールできる場が限られている(SNS、YouTube等)。高齢者だけでなく、社会との直接的なつながりが薄い。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・出かけていくのが無理でない人は、「場」を作ること。そこに材料を持ち寄り調理して食べることができるならいいのか。中心となる人が必要。場、使用料の問題はある。
- ・社協や民政委員が中心となり、高齢者とのかわりを作り輪を広げていく、同じ地域の人とのつながりを作り、一緒に食べることを楽しめる関係、環境を作る。
- ・大学に呼びかけ、長期の休みを利用して、高齢者との交流を計画してみてもどうか、社会福祉関係の学部も多くあるので、関係のある学生もいるのかも。

(Name : T・H)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(12)

①テーマについての問題・課題

- ・そもそも孤食や現在の食生活を問題視している人が少ない。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・YouTubeやブログなどで、地域の食材を使った料理動画を出してみる。

(Name : N・M)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(2)

①テーマについての問題・課題

- ・人と人のつながりのある食事づくりの場。
・孤食の現状を発信。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・食事づくりで人が集える。

(Name : Y・N)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(6)

①テーマについての問題・課題

- ・食と健康に興味をもつ。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・若者と高齢者による長久手の伝統食。

(Name : K・M)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(9)

①テーマについての問題・課題

- ・学生さんが野菜を食べたいと思っても、値段が高かったり、買い物に行く時間がないとのこと。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・野菜のコインロッカー販売はどうか?(期間限定のおためしから)
- ・ために、図書館などに置いてあるコインロッカーに200円くらい入れたら野菜の詰め合わせが入るようにするのはどうでしょうか?それを大学に置いて、あぐりん村の生産者に野菜の詰め合わせを作ってもらおうのです。学生の利用の様次第で続けるかどうか検討するのも良いかと思えます。

(Name : H・I)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(3)

《若者》

①テーマについての問題・課題

- 《若者》・食事に関する知識。
《高齢者》・栄養不足の可能性。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- 《若者》・料理教室の場の提供。
《高齢者》・高齢者サロンのような高齢者食堂をつくる。

(Name : I・R)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(7)

①テーマについての問題・課題

- ・若者の食事力を高める。
・高齢者の共食の機会をつくる・増やす。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・『食べ活プロジェクト』 簡単、おいしい、安い、できる、楽しい♡をキーワードに、若者と食生活改善推進員さんなど、地域の方と一緒にレシピを考案し試食。
- ・作った食事を子ども食堂で提供したり、一人暮らし高齢者に宅配したりして、“食”を通じて、子ども・若者・地域の人々・高齢者をつなぐ。

(Name : F・J)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(10)

①テーマについての問題・課題

- ・老人のために若者が食事を作り、一緒に食べる。これで一石二鳥なんだけれど、それをどうやって実現するかが問題であり、今後の課題となる。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・老人ホームで、若者がピザパーティとか、たこ焼きパーティをする。(孤食の対応になっていないとすみません)。

(Name : H・E)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(4)

①テーマについての問題・課題

- ・人のつながりを大切にしたい。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・レシピコンテストの開催。
・料理の先生、若者に教える。

(Name : S・M)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(8)

①テーマについての問題・課題

- ・高齢者の孤食は、食事の偏りにより身体面に悪影響を及ぼす。人とのつながりの希薄化で精神的な悪影響とも密接に関係している。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・なるべく子ども世代との同居を推進する。
- ・地域の活動の場で、共食の良さや孤食が生み出す問題を提示する場を設ける。
- ・テレビなどで孤食の問題を取り上げてくれるといいと思う(高齢者の方がよく目にする広報媒体など)。

(Name : O・Y)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(13)

①テーマについての問題・課題

- ・高齢者の孤食の増加。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・子ども(小中学生)と高齢者が一緒に食事づくりができる場を増やす!!

(Name : T・K)

ながくての食育 取組・行動のアイデア(14)

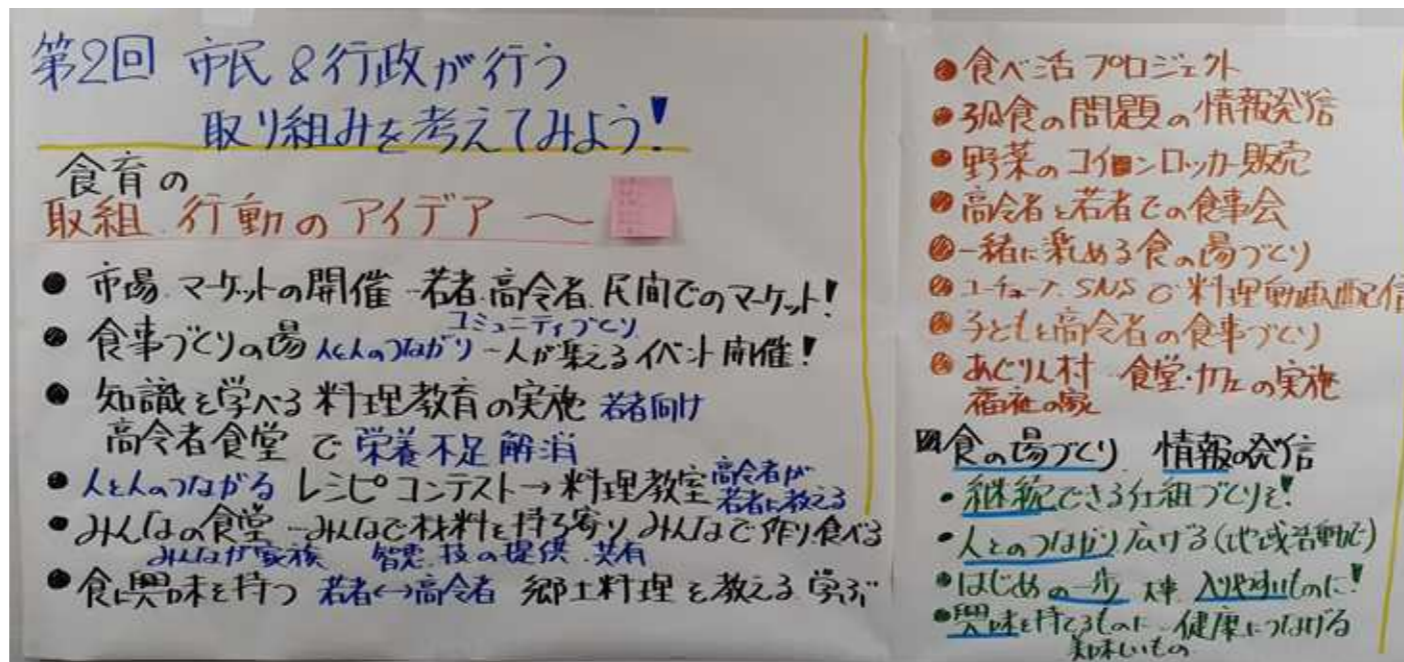
①テーマについての問題・課題

- ・若者が自炊する意識は高まっているので、情報さえあればバラエティに富んだバランスのいい食事を作る機会は増えるはず。買い物する場所がコンビニではなく、スーパーやあぐりん村であれば、旬の物や産地がわかりやすい。
- ・高齢者の孤食を減らすためには、必然的に人とコミュニケーションをとる場所があるといい。
- ・共生ステーションに集う人は、もともとコミュニケーション能力が高い人ではないでしょうか。

②課題解決に向けた取組・アイデア

- ・若年層が、あぐりん村で買い物をしやすいように、SNSで発信する。TikTokなど短時間で見やすいもので紹介して、ストーリーズにつなげるなど。
- ・高齢者が必然的に集う場所を、医療機関などが集中している場所につくる。そこを発信源とした、食堂・カフェ、福祉の家を活用してはどうでしょうか。

(Name : U・S)



Step4 私の食育宣言

全3回を通じたワークショップの締めくくりとして、参加者そしてスタッフ全員に、「私の食育宣言」をしてもらって終了しました。

私の食育宣言	
「私は、“食でつながる ながくて”の実現に向けて、〇〇〇に取り組んでみようと思います。」	
隣の人への声掛け（何食べた？）	感じること
積極的に発信すること	地元のものを選んで食べる（規格外があれば選ぶ）
コンポストの活用と拡大	食のエコに努める
「一緒に畑を耕し、一緒に食べる」仲間づくり	地域で何がどこで生産されているかを知ること
生産 → 料理 → 食べる → 発信	あぐりん村にたくさん行ってみる
食に関わるすべての人、命に感謝する	まず自分が、地産地消に取り組み、友人等におしうり
明日の朝ごはんをバランスよく	多くの人と食事をする
農業を全力で	まずは、自分の食事の見直し
コミュニティづくりと関わり方	食に関する勉強会をのぞいてみる
必ず誰かと食べる	

おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、第2回ワークショップは紙面による意見募集とオンラインによる意見交換に変更となりましたが、計3回のワークショップを無事に開催することができました。いただいた貴重な意見を計画策定ならびにその後の事業推進に活かしていきたいと思っております。

最後に、参加者の方々からいただいた、ワークショップ開催に関する感想を記します。

意見等
・資料の準備がしっかりされていて、とてもスムーズにいったと思います。ありがとうございました。
・“食”を通じて、いろいろな方とお話しできて、とても楽しい時間でした。これを機会に、1つでも何か取り組んでいけたらと思います。
・方向性が見えたので、実行し、今後につなげたい。続けることが大切。
・若者の意見も聞けて、大変に食に関する幅が広がった。
・10年ほど前から長久手の食に関わるイベントに参加させていただいています。給食やボランティアについて、長久手は充実していると思います。
・改善すべきは、高齢者で力も人脈もあるのに、発揮する場がないことです。ある程度強制的にでも良いと思うので、ご退官された方を引っ張ると市が変わると思います。
・知らないことをたくさん教えていただき理解が深まりました。長久手市の良い資源をより良く使っていけるように日々考えます。ありがとうございました。
・管理栄養士の立場として参加させていただき、とても多くの課題があることを知りました（長久手市だけではありましたが…）。その課題に今後しっかりと取り組んでいきたいと思っております。3回にわたりありがとうございました。
・普段、食について考えることがありませんでしたが、色々な考え方があり、勉強になりました。ありがとうございました。
・1・2回目の講座で話し合ったことが、分かりやすくまとまっていて、今日はたくさんの課題やアイデアが出ました。
・まず、自分から出来ることを実践していこうと思います。このワークショップに参加することで、出会いがあり、情報を得ることもあり、とても楽しかったです。最後に「誰かと一緒に食べる」はすごく良かったです！ ナイス！
・多くの面に渡る点でお話聞けたのと、食を考えて意見交換の場が貴重でした。
・多くの意見を自分に生かしたい。
・ぜひ愛知医科大学にもキッチンカーが来て欲しいです。
・いろいろなお話、考え、想いを知ることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

長久手の食育を考えるワークショップ（事務局：長久手市建設部 みどりの推進課）
Tel：0561-63-1111（代表） Mail：midori@nagakute.aichi.jp 担当：都築、吉田

第3回

第3次長久手市食育推進計画策定に向けて
**長久手の食育を考える
ワークショップ**
2021.11.06 Sat

資料-X

News Letter



市民・地域の取組、企業・事業者の取組について考えてみました！

これまでのワークショップを踏まえ、事務局から食育推進計画の骨子（案）を提示しました。これに意見を加えつつ、長久手の食育推進のために、私たちが家庭や地域・職場で取り組みそうなこと、取り組むべきことは何かを考えてみました。その結果のあらましを紹介します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う「非常事態宣言」は9月末実に解除され、第3回ワークショップは、リモテラス公益施設を会場に顔を会わせて開催することができました。

参加者は13名で3つのテーブルに分かれワークショップは始まりました。Step1ではオンライン開催となった前回（第2回）ワークショップの結果を報告しました。

次に、Step2では、事務局から提示した食育推進計画の骨子（案）に対して、共感できること、取組・行動で追加したいことを話し合いました。Step3では、長久手の食育推進のために、私たちが家庭や地域・職場で取り組みそうなこと、取り組むべきことについて意見交換しました。

最後に Step4では、「私の食育宣言」をしてもらって全3回のワークショップを終了しました。



第3回 ワークショップ

日時：令和3年11月6日（土） 10:00～12:00
場所：リモテラス公共施設 大廊下ほか

【プログラム】

開会 あいさつ・趣旨説明

Step.1 前回ワークショップのおさらい

Step.2 計画の骨子（案）をながめてみよう！

・計画骨子（案）への共感意見「いいね」と、追加意見「プラスα」について話し合い

Step.3 市民・地域の取組、事業者の取組について考えてみよう？

・私たち市民、地域、事業者が取り組むべきことについて意見交換

Step.4 私の食育宣言

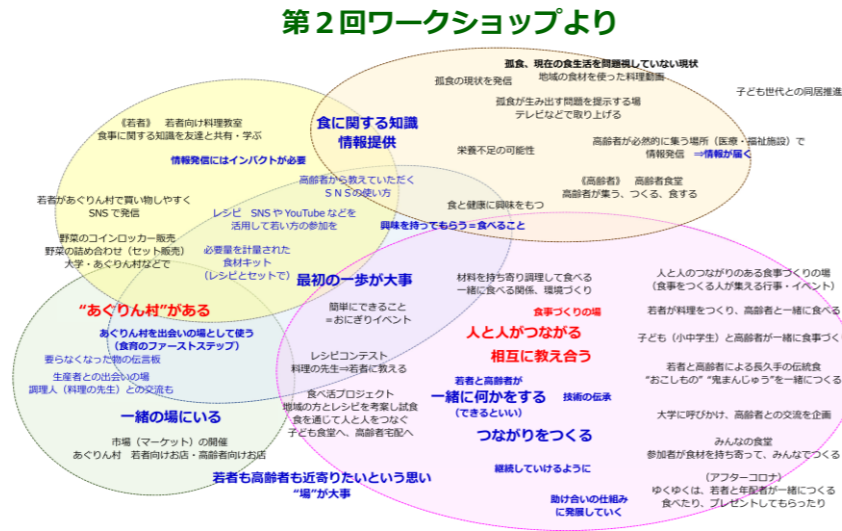
・全員が、自分自身の食育行動を宣言

閉会

Step1 前回ワークショップのおさらい

第2回ワークショップはオンライン開催となり、書面での参加となった方々も少なくなかったため、改めて、メンバーの皆さんから寄せられた「ながくての食育推進に向けた取組・行動のアイデア」を紹介することとしました。併せて、第2回ワークショップでどのような意見交換を行ったのかについておさらいしました。

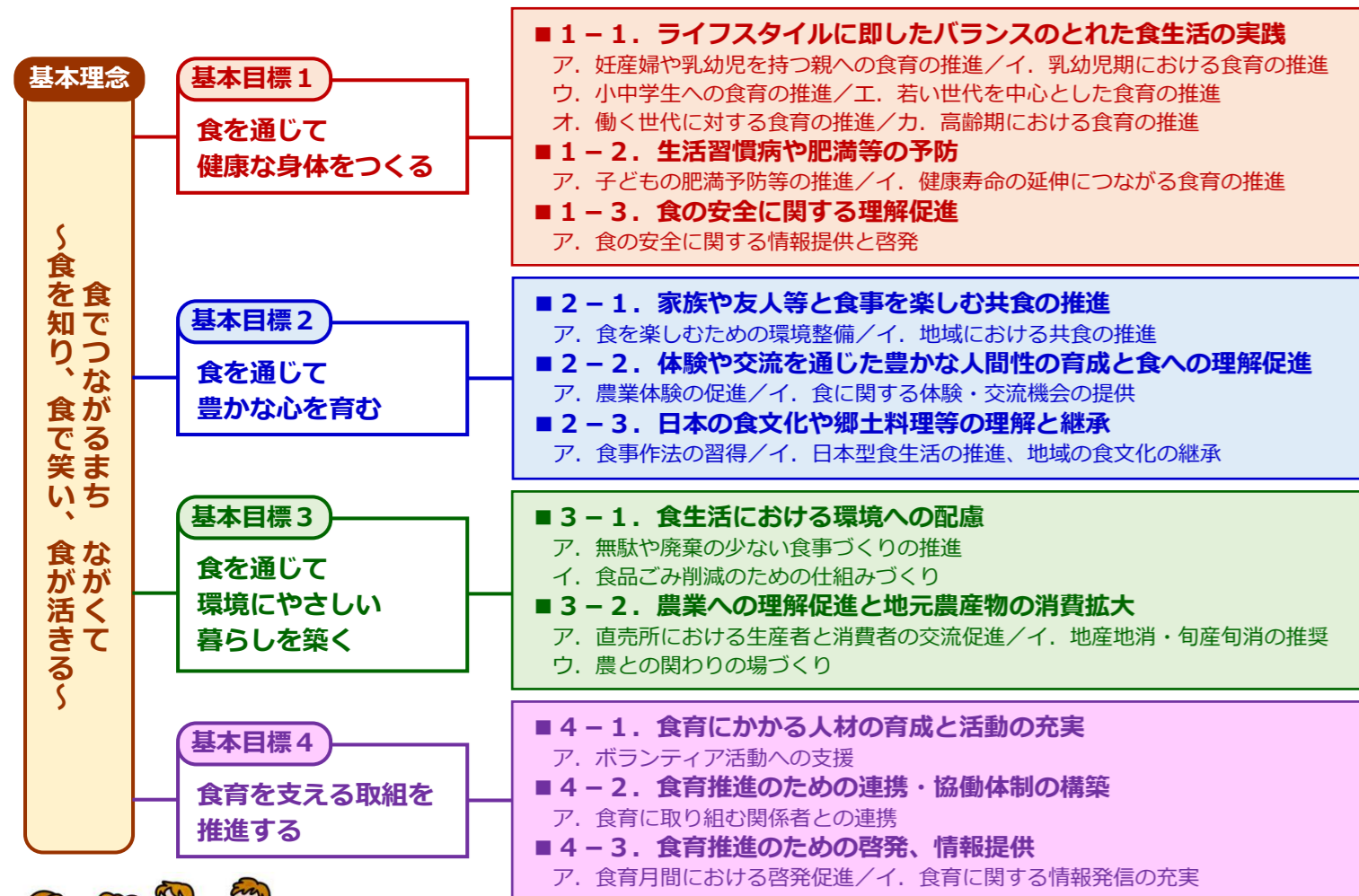
食に関する知識・情報をしっかりと伝えていくこと、興味を持ってもらうこと、人と人とのつながりをつくること、長久手市にはあぐりん村をはじめ食育に有効な場があることなど、いくつかのポイントがあったことを紹介しました。



Step2 計画の骨子(案)をながめてみよう!

第3次長久手市食育推進計画の骨子(案)を説明しました。計画の体系(大枠)は以下の通りです。「行政の取組(要点)」に関して、共感できること・いいと思えることには「いいね👍」カード(黄)、取組・行動で追加したいことについては「プラスα」カード(青)を貼り付け、グループ内で意見・感想を共有しました。

第3次長久手市食育推進計画 2022~2026 計画の体系 ~試案~



計画の骨子(案)への意見・感想(抜粋)

「いいね👍」カード (共感できること・いいと思えること)	「プラスα」カード (取組・行動で追加したいこと)
基本理念がイネ。	知識の講座にとどまらず、参加者で実践して、その成果を検証する。(フォローアップが大切)
出前型情報発信 どこでやるか、どう伝えるかが大事だと思うのでいいな...	つながりづくり(高齢者との交流) 高齢者が持っている食に関する知識⇒若者が発信する。
みんなの食堂(高齢者食堂/子ども食堂) いろいろできそう!	子ども食堂は、子どもだけの食堂ではないこともあわせて発信できたらいいな...
一緒につくり食べるイベント とにかく、みんなの集まる場で始める。	余剰食品の有効活用 農業者が廃棄する野菜を提供してもらおう
レシピ付き、材料セットの販売 共働き世代の味方/何回もつくろうと思える	生産者との交流イベント 生産者ならではの食べ方、レシピ、試食できるとより良い
地産地消を積極活用 農に親しめる機会	給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進 どのように給食に地場産物等を導入できるか考える必要がある

Step3 市民・地域の取組、事業者の取組について考えてみよう?

計画の骨子(案)に沿って、私たちが家庭や地域・職場で取り組みそうなこと、取り組むべきことについて意見を出し合い、グループ内で意見交換しました。

提示された意見(抜粋)

市民の取組 (個人・家庭で取り組めること、取り組むべきこと)	事業者の取組 (企業や事業所で取り組めること、取り組むべきこと)
高齢期における食育の推進 男性の独居コミュニティづくり	妊産婦や乳幼児を持つ親への食育の推進 子育てするパパ・ママが集まれるカフェ・市のHPで告知
食を楽しむための環境整備 朝ご飯を家で食べる。	若い世代を中心とした食育の推進 カフェメシのレシピ/キッチンカー大学へ(地元食材)
食に関する体験・交流機会の提供 地元野菜料理コンテスト SNSで発信する	高齢期における食育の推進 クリニックや薬局に、情報発信の場になってもらう
食事作法の習得 命をいただいていることを意識して、手を合わせて食べる	健康寿命の延伸につながる食育の推進 食と健康に関する出前講座の開催
日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 伝統食、郷土料理をつくってみる(おこしもの等)	日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 飲食店のメニューに、長久手の特徴を入れてもらう
食品ごみ削減のための仕組みづくり 生ごみはぬらさない/食べ残しを減らす/コンポストにする	食品ごみ削減のための仕組みづくり 規格外の野菜の流通の仕組みをつくる⇒子ども食堂などへ
地産地消・旬産旬消の推奨 長久手で生産されたものを食べる。	農との関わりの場づくり 農家さんと情報共有して、農業収穫体験する
働く世代に対する食育の推進 食についての保護者向け講演会	食育に関する情報発信の充実 引きこもっている人への声掛け(回覧板の充実)
高齢期における食育の推進 地域のコミュニティで活動していることを発信する	
健康寿命の延伸につながる食育の推進 食と健康に関する出前講座の開催	
日本型食生活の推進、地域の食文化の継承 共生ステーションでの「作って食べる会」の開催	
農との関わりの場づくり 地域の活動チームでイベントを立てる(イモ掘り等)	
ボランティア活動への支援 食イベントに若者のボランティア参加を促進する	
食育に関する情報発信の充実 引きこもっている人への声掛け(回覧板の充実)	